

はーとふるメッセージ 2013

特選作品
紹介



学年・学校名は応募時のものです

作文・一般の部

決意

平田 菜由さん

(彦根総合高等学校3年)

「高校では頑張つて。」
中学校の時、あまり学校へ行けなかった私にとって凄くプレッシャーでした。
四月、高校の入学式。知らない人ばかりで、不安で不安で仕方なかったです。もちろん楽しい事も沢山ありました。でも、それと同じくらい



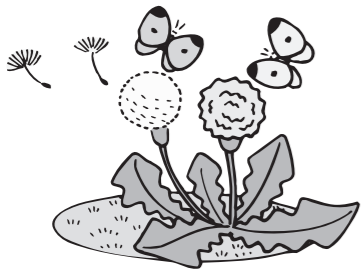
作文・中学生の部

ある日の出来事

久保田 恵理さん

(南中学校1年)

夏休みに入る前に、こんな事がありました。
友達四人で、部活に行く途中の事を思い出して、とてもふらふらしていたそうです。しばらくすると、おじいさんは二回もこけてしまったのを見てしまいました。これは様子がおかしいと思い、みんなでおじいさんを見に行きました。すると、手からたくさん血がでていました。みんなは、すぐに手当てをしなければいけないと思い、持っていたお金を出し合って、近くのコンビニに行った



と言ってくれた事を覚えています。何も恩返しをできていなくて何かできる事はないか探したら、私は一番に高校を無事に卒業する事だと思いました。そして将来の夢は、困っている高齢者の方の相談を聞いて、困っている人の手助けをするソーシャルワーカーになることです。私が困っている時に優しく聞いてくれたおばあちゃんみたいになりたいです。形は全然違うかもしれないけど、私にはソーシャルワーカーになりたいという強い意志があります。
高齢者の方の相談を聞くだけではなく、学校へ行けない学生の相談なども聞いていきたいです。私自身が学校に行けない時、凄く悔しい思いをしたり、悩みが沢山あり、凄く苦しい時期がありました。その時、誰か

標語・一般の部

あなたにもらった
思いやり
次は私が倍返し

岩佐 裕行さん

(タカタサービス株式会社)

なったら、いいです。自分も今できる事は何かを考え、行動できる人になりたいなと思いました。



入賞作品を展示しませんか

作品に込められたメッセージが、さらに多くの皆さんに伝えられることを願って、作文・標語・ポスターの入賞作品を啓発パネルにして、無料で貸し出しをしています。

心がほっとなごんだり、はつと気づかされたり、心温まるメッセージがいっぱいの啓発パネルです。

パネルは一枚から借りられます。家庭、地域、職場などで活用してください。

問い合わせ先 困人権政策課
☎30・6115番、FAX
24・8577番

嫌な事もありました。学校を休みたいと思う事が日々増えていきました。でも、高校だけは絶対に卒業しようという強い意志があります。
それは誰よりも私の事を心配してくれていたおばあちゃん存在です。中学校の時、休む日が多くなり、誰よりも優しく接して、話を沢山聞いてくれました。でも、そんなおばあちゃん、私が入学する前に突然永眠しました。前夜までは元気で話していたので、おばあちゃんの死を受け入れられなかったです。朝起きるといつもいるおばあちゃんがない。そんなに簡単に受け入れられる訳なく、しばらくボーンとしていました。でもある時、おばあちゃんが言っていた事を思い出しました。
「高校はちゃんと行けるよ。」

選評

辛い時、苦しい時、いつも温かく見守り、励まして下さった亡きおばあちゃんへの感謝の気持ちがあふれています。同時に高校だけは必ず卒業し、優しいソーシャルワーカーになりたいと願う強い意志もよく伝わってきます。将来の夢に向かって進む作者に心からのエールを送ります。

もののお金が足りず、お店の人に事情を話し、包帯を値切ってもらったことになりました。包帯を買って、すぐに戻りおじいさんを手当てしていると、車で通りすぎりの見知らぬ人が声をかけてくれたそうです。事情を説明すると、その人が病院までおじいさんを連れて行ってくれる事になりました。その後、友達は部活に遅れてきました。その日、部活が終わらないうちに家族の人が来て、お礼を言いに来られました。
私は、この話を聞いた時、同じ部活の友達を誇らしいなと思いました。それは、見ず知らずの人を助ける事ができたからです。でも、これはその場にいる全ての人達がそれぞれよかったんだなと思いました。
最初に、見て見ぬふりをしなかった友達、お金が足りないと言ったにも関わらず包帯を売ってくれたコンビニの人、そして、たまたま車で通りすぎた人、みんながその時でできる精一杯の事をしたから、おじいさん

選評

見知らぬおじいさんの様子がおかしいことに気づき手を差し伸べる友達の行動を頼もしく思います。自分だったらどうするだろうかと考え、自分の弱い心にも向き合って前に進もうと決意する姿勢に心打たれます。困っている人を助けるという行動を起すには勇気がいることです。その場にいたすべての人たちはそれができたのです。「助け合っていけば一人の力が大きな力となり、乗り越えられることがたくさんあるのだ。」ということがわかり、友達を誇りに思う筆者に拍手を送ります。